

絵本を選択する際の重視度に基づくランキング

後藤 里奈

本研究の目的は、インターネット上の絵本のレビューを利用して、絵本選択者の重視度に応じたランキングを提案することである。絵本のレビューはブログや掲示板など様々な形で存在するが、本研究では、現在出版中の絵本をほぼ網羅している日本最大の絵本サイトである絵本ナビを対象とする。

絵本ナビでは、投稿者による絵本の評価は、評価点（5点満点の点数）とレビューからなっている。提供されているランキングには、評価ランキングとレビューランキングがある。評価ランキングは、評価スコア（投稿された全評価点を足し、さらに絵本ナビ事務局から3点を加え、投稿者数+1を平均した点数）が大きい順に絵本をランキングにしたもので、レビューランキングはレビューの数が多い順にランキングにしたものである。しかし、レビューの内容は良い評価のみでも評価点が低かったりするなど、評価スコアの前提となる評価点の付け方が投稿者によって曖昧であるという問題がある。また、絵本を選ぶ際に重視する項目は人それぞれだが、評価点は総合評価点であるため、評価点だけでは個々人の重視度を考慮することが出来ない。それに対し、本研究では、レビューを内容毎に分類、点数化し、選択者の項目毎の重視度に応じて新たなランキング（新ランキング）を作成する。

本研究ではまず、絵本を選択する際に、絵、文、内容の項目毎の重視度を10人に調査した。その結果、重視度は人によってばらつきが見られた。次に、傾向の違う5冊の絵本からレビューを100件ずつ取り出し、絵、文、内容について肯定的な意見と否定的な意見を抽出し、点数を生成、それに事前に調査した重視度をかけ、被験者毎に新ランキングを作成した。被験者には実際に5冊の絵本を読んでもらい、好みの順に順位を付けてもらった（本人ランキング）。新ランキングと本人ランキングの順位相関を出したところ、10人中2人の相関係数が0.7以上であった。被験者に絵本毎の判断基準を調査した結果、レビュー内容と感想が真逆の場合があった。レビュー内容と被験者の感想が逆になっている絵本をランキングから除いて計算し直すと、新たに2人の相関が0.7以上となった。また、判断基準の内容から、事前に調査した絵本の重視度と実際に選ぶ時の重視度が違っていることが分かった。重視度を変えて計算し直したところ、さらに2人の相関が0.7以上となった。また、相関が出るには至らなかったものの、負から正の相関に変わったものが3人見られた。そして、点数を計算する際に否定的な意見を考慮しないことで、残る1人の相関も改善された。

これらの結果から、絵本を選ぶ際、本人が意識している重視度と、実際に選ぶ時の重視度の間にはずれがあることが分かった。何度か実際に絵本を選び、項目毎の重視度を算出することで、より精度の高いランキングが出来ると考えられる。

（指導教員 真栄城哲也）